

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について (中間評価)

課題名 「 建築生産におけるワークフロー分析・計画技術の研究開発
建築生産の合理化を目指して 」

1. 主な所見

- ・ 所見 : 最終的な成果の位置づけをより明確としたほうが良いのではないかと。単に、業務のモデルを記述するだけではなく、成果を誰がどのように利用できるか、また、どのような形で建築生産に広く生かしていくのかをより具体的に示せるとよいと思われる。また成果を活用する目的によって対象とするワークフロー分析の範囲や粒度などが異なると考えられるが、それらの指標についても本研究によってある程度は明らかになるものと期待される。
- ・ 所見 : ワークフローにおいては、コストや工程計画については、どのように扱われているのか。本研究のワークフローと現状でも実務で利用されている工程管理システム等とはどのような関係となっているのか。
- ・ 所見 : 設計においては与条件作成、つまりブリーフィングが非常に重要である。公共発注主体がユーザーに代わって明確なブリーフを提示し、設計の進行とともに変化するブリーフに適切に対応していく部分は、現状のプロジェクトにおいては、まだ不十分と考えられる。これらのプロセスにおいて、ユーザーからの意見を取り入れる部分は、フローにどのように反映されるのか。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答 : 評価委員会の中で説明したとおり、本研究においては、1)建築プロジェクトにおける業務内容の明確化、2)ネットワークシステム化による業務進捗・情報管理の高度化、3)プロジェクトを遂行する上での制約条件と各種基準類との協調による業務の効率化、などが主たる効用として考えている。これらの説明補助資料で列記した効用を、今後より説明的な内容にするとともに、そのために必要な分析範囲や粒度についても検討していきたい。
- ・ 所見 に対する回答 : ワークフロー管理システムは存在するが、建築生産に適用可能なものはなく、コスト管理等が建築生産用ワークフロー管理システムにどのような形で実装されるかは現時点で不明である。既存の工程管理システムなどとの関係については、ワークフロー管理システム間を繋ぐインターワークフローの利用が有力とも考えられ、その方面の研究もワークフロー研究として行われていることから、将来的には統合は可能になるとと思われる。
- ・ 所見 に対する回答 : 建築プロジェクトの初期段階におけるブリーフ、ならびに設計段階におけるこれらの変更管理の重要性は認識している。ブリーフについては、平成 16 年度に単年度の課題として研究する予定にしている。得られた成果の内容によっては、本研究に反映させることも可能と考えている。